



乳幼児期の非認知能力についての意識および取り組みに関する調査 —保護者調査 集計結果（速報版）— ダイジェスト

東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター
令和3（2021）年1月

1. 調査の概要

東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）は凸版印刷株式会社と共同し、幼児の非認知能力を育成する保育実践の研究を行っております

この調査は、その一環として、乳幼児期（0～6歳）のお子さんを持つ保護者の皆様と、保育・幼児教育に携わる園（施設）の先生方・職員の皆様を対象に「乳幼児期の非認知能力についての意識および取り組み」の実態について把握することを目的として実施いたしました

調査は2020年9月～11月にかけてWeb調査形式で行いました
保護者を対象とした調査では計1,769件、園・保育者を対象とした調査では計409件のご回答を頂きました

調査にご協力くださった皆様に深く御礼申し上げます

本資料は、**保護者を対象とした調査**の報告書（速報版）
のダイジェストです

2. 調査の目的

これからの保育・幼児教育において、「非認知能力」を含む乳幼児期の多様な心の育ちをどのように支えることができるのか検討するための根拠となる材料（エビデンス）を広く社会で共有するために、乳幼児期（0～6歳）のお子さんを持つ保護者の取り組みの実態について把握すること

3. 調査の方法

【時期】 2020年9月～11月

【対象】 0歳～6歳の未就学のお子さんを持つ保護者

【手続き】 Googleフォームを利用したWeb調査形式による質問紙調査

- ①機縁法による回答依頼と②（株）クラウドワークスが提供するクラウドソーシングサービスを利用した回答依頼を行い、得られた回答は計1,769件（機縁法による回答753件／クラウドソーシングによる回答1,016件）でした
- 収集された回答のうち、全ての回答が同一であるなど重複送信されたと判断されたもの（計79件）と「0～6歳の未就学のお子さん」について回答していないもの（計7件）を除外し、1,683件の回答を集計対象としました

4. 倫理的配慮

【個人情報の保護と情報の取り扱い】

アンケートフォームの冒頭にて、①匿名のアンケートであり、個人を特定するような情報は収集されないこと、②本調査の結果は、東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）のWEBページ（<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/>）に掲載し、その他の学会・論文やシンポジウムで発表する可能性があること、③データはこの研究成果の発表後少なくとも10年間、東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）内で保存すること、について記載しました

【回答の任意性】

アンケートフォームの冒頭にて、①このアンケートへの回答は任意であり、答えたくない場合は回答を止めても良いこと、②回答を途中で止めたからといって不利益を被ることはないこと、について記載しました

【その他】

この調査は東京大学の倫理規定に則って実施するものであり、東京大学倫理審査専門委員会および教育学研究科長の承認を得て調査を実施しました

5. 調査の内容

- （１）回答者自身と家庭の基本情報**
- （２）お子さんの基本情報**
- （３）「非認知能力」に関する理解・重視度・家庭での取り組み**
- （４）お子さんの資質・能力についての意識**
- （５）家庭での取り組み（習い事・学習など）と園に期待すること**
- （６）「非認知能力」に含まれる5つの資質・能力についての重視度や取り組み**

※複数のお子さんがある場合は「0歳～6歳の未就学のお子さんの中で一番上のお子さん1人」についての回答を求めました

表 1. 今回の調査で取り上げた18の資質・能力

認知能力 （児童期以降の各教科の学力）に関連する力	(1) 文字を読んだり書いたりする力
	(2) 言葉で伝えたり聞いて理解したりする力
	(3) 数，図形，記号などを使ったり理解したりする力
	(4) 理科や科学に関する知識と理解力
	(5) 社会の仕組みや地理・歴史に関する知識と理解力
	(6) 英語など外国語の語学力
	(7) プログラミングなど情報処理に関わる力
	(8) からだを上手に使うことができる運動能力や健康に資する体力
	(9) お絵かきや音楽などの表現力・芸術的感性
非認知能力 に関連する力	(10) 自分自身を好きだと思える心（ 自尊感情 ）
	(11) 物事に興味・関心を持ち，自分から進んで取り組む力（ 興味・内発的動機づけ ）
	(12) 自分にはできないと決めつけず，自信をもって取り組む力（ 自己効力感 ）
	(13) 物事を最後までやり抜く粘り強さ（ 忍耐力・持続性 ）
	(14) 相手の気持ちを読み取ったり，自分の気持ちを上手に表現したりする力（ 感情知性・EI ）
	(15) 困っている人に共感したり，助けてあげようとしたりする思いやりの心（ 共感・向社会性 ）
	(16) 大切な目標のために目先のやりたいことを一旦がまんしたり，固執せず柔軟に対応したりする力（ セルフコントロール・自制心 ）
	(17) 生活習慣や社会的ルール，礼儀正しさを守ろうとする心（ 規範意識・道徳性 ）
	(18) 他の人と協力して何かをやり遂げる力（ 協同性・協働性 ）

注）表中の（ ）内は関連する非認知能力を示します

6.1. 回答者の年齢とお子さんから見た関係性

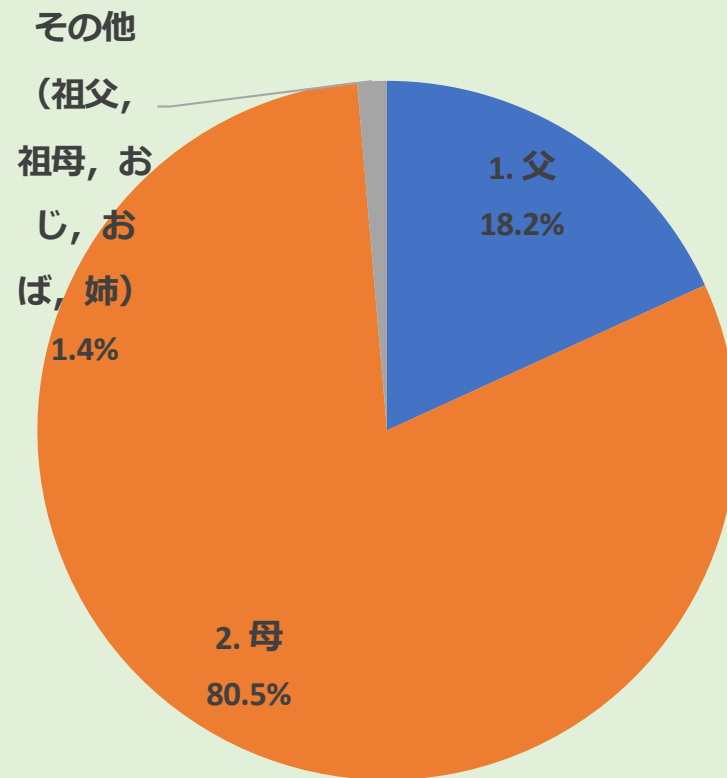


図 1. お子さんから見た関係性 (%)

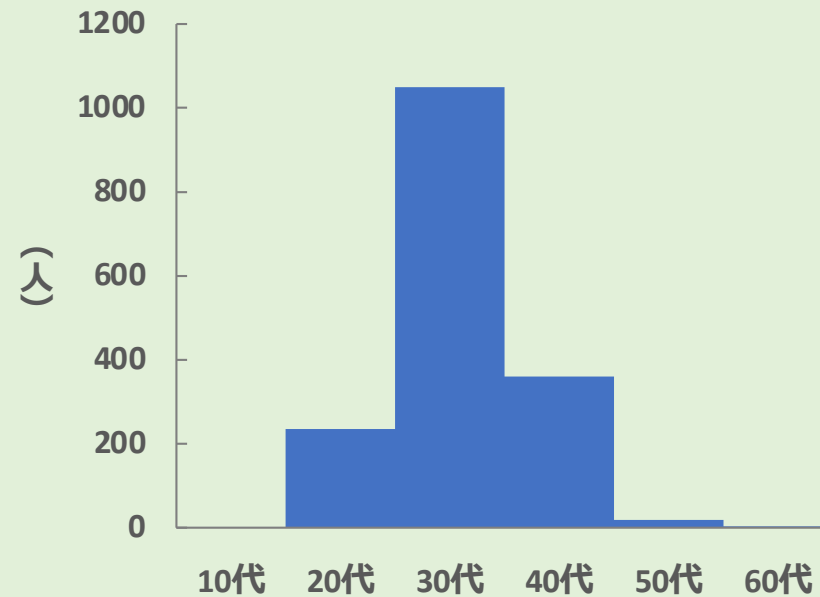


図 2. 保護者の年齢

回答者の人数：1,683 名（父306名，母1,354名，その他23名）

回答者の平均年齢：35.4歳（SD=5.8，レンジ19～65歳，回答なし13名）

回答者の居住地：47の都道府県

（多い順に(1)東京都（12.9%）／(2)静岡県（12.3%）／(3)大阪府（5.6%）...）

6.2. お子さんの年齢・性別／6.3. お子さんの出生順位

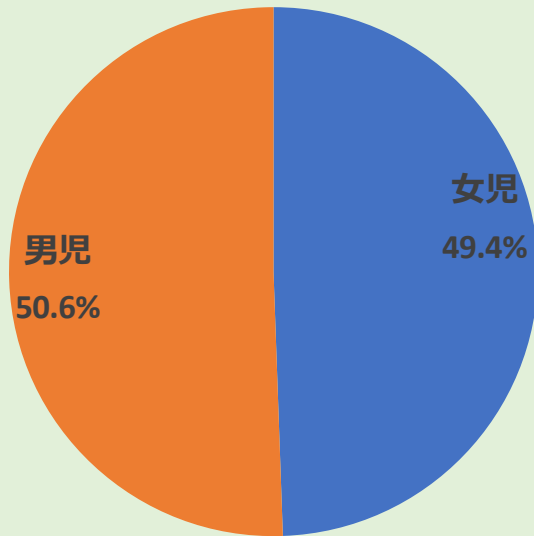


図 3. お子さんの性別 (%)

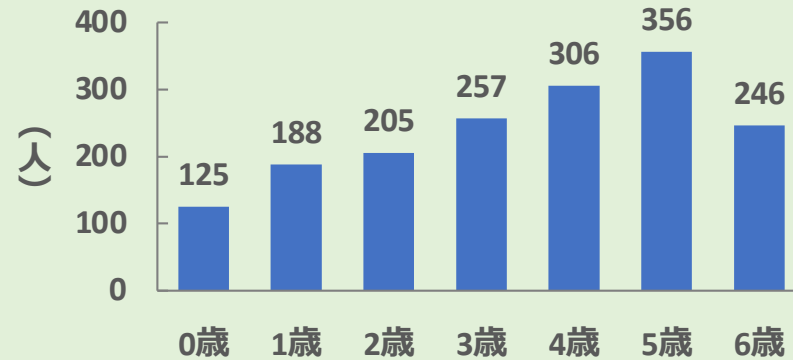


図 4. お子さんの年齢

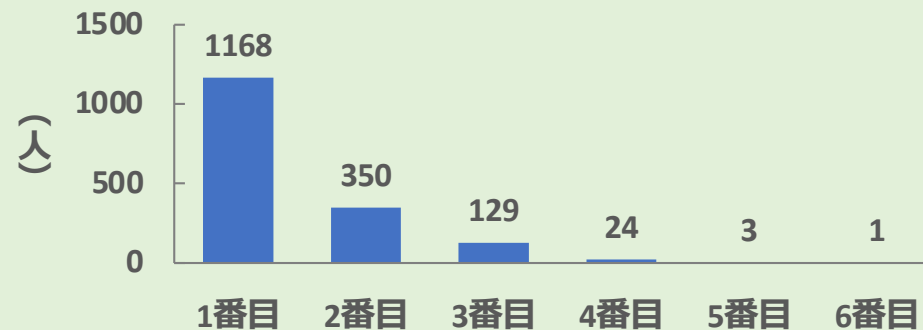


図 5. お子さんの出生順位

注) 複数のお子さんがある場合, 「0歳～6歳の未就学のお子さんの中で一番上のお子さんお1人」についてお尋ねしました

お子さんの性別: 女児832名 (49.4%) / 男児851名 (50.6%)
お子さんの年齢: 0歳125名 (7.4%) / 1歳188名 (11.2%) / 2歳205名 (12.2%) /
3歳257名 (15.3%) / 4歳306名 (18.2%) / 5歳356名 (21.2%) / 6歳246名 (14.6%)
出生順位: 1番目1,168名 (69.4%) / 2番目350名 (20.8%) / 3番目129名 (7.7%) / 4番目24名
(1.4%) / 5番目3名 (0.2%) / 6番目1名 (0.1%) / 回答なし8名 (0.5%)

6.5. お子さんの通園状況

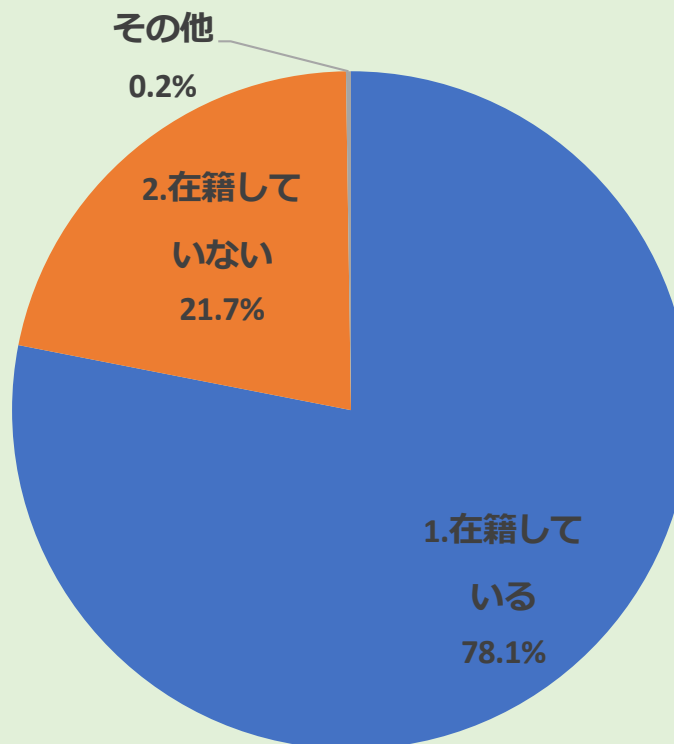


図 6. お子さんの保育園・幼稚園など保育・幼児教育施設への在籍状況 (%)

注) 複数のお子さんがある場合, 「0歳～6歳の未就学のお子さんの中で一番上のお子さんお1人」についてお尋ねしました

園（施設）への在籍状況：「在籍している」（78.1%）／「在籍していない」（21.7%）／「その他」（0.2%）

6.6. お子さんが在籍する園（施設）の種別

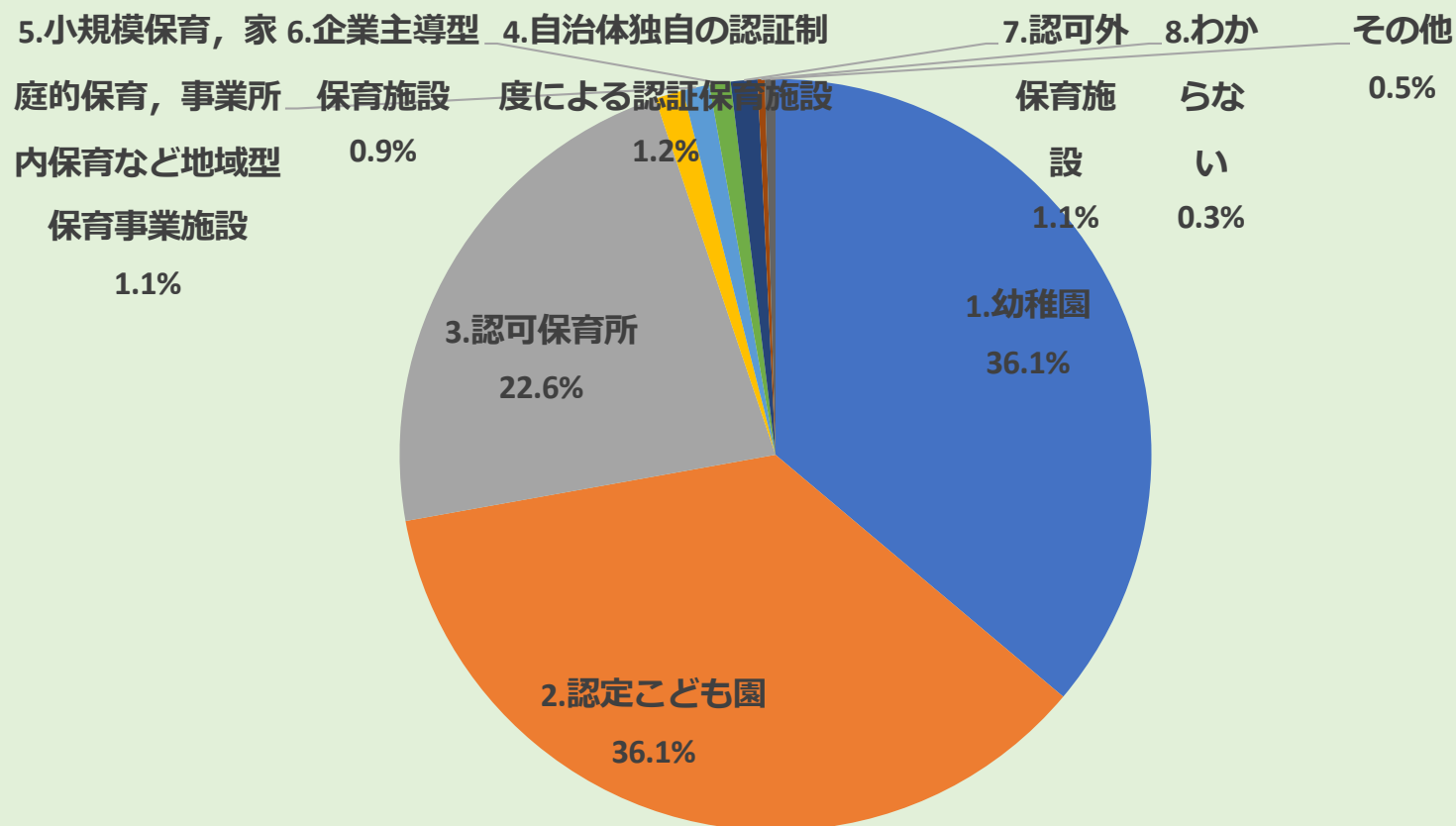


図 7. お子さんが在籍している園（施設）の種別 (%)

注) 複数のお子さんがある場合, 「0歳～6歳の未就学のお子さんの中で一番上のお子さんお1人」についてお尋ねしました

園（施設）の種別：多い順に「幼稚園」（36.1%）／「認定こども園」（36.1%）／「認可保育所」（22.6%）でした

6.7. お子さんが在籍する園（施設）の設置主体

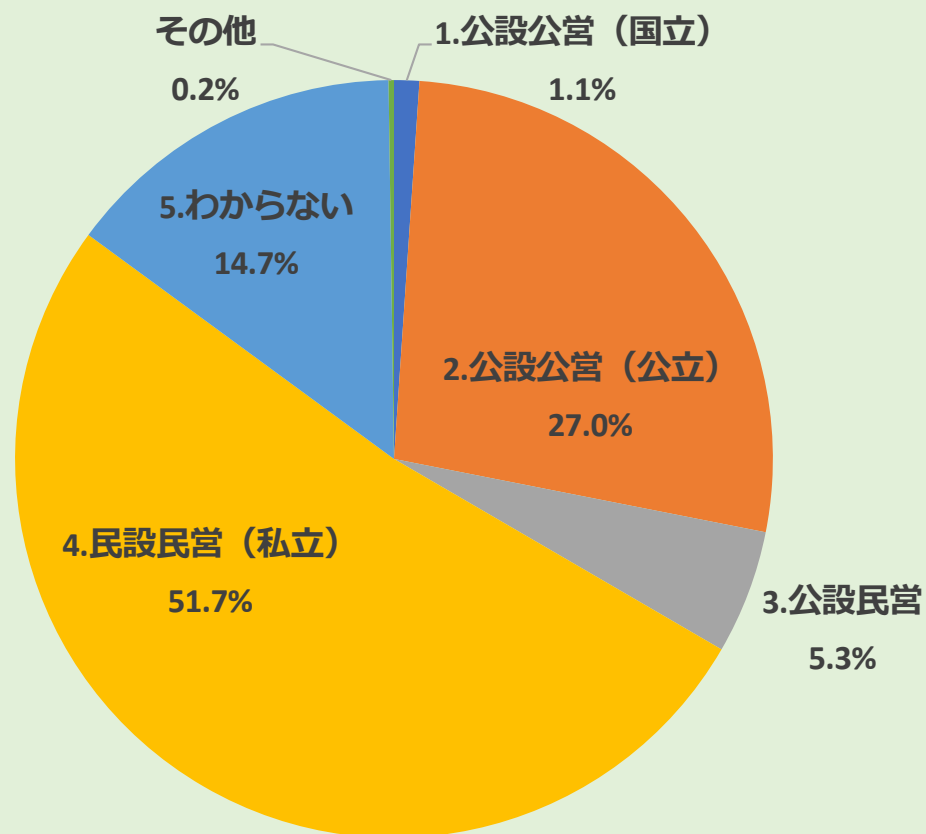


図 9. お子さんが在籍する園（施設）の設置主体 (%)

注) 複数のお子さんがある場合, 「0歳～6歳の未就学のお子さんの中で一番上のお子さんお1人」についてお尋ねしました

園（施設）の設置主体：多い順に「民設民営（私立）」（51.7%）／「公設公営（公立）」（27.0%）／「公設民営」（5.3%）でした

7.1. 「非認知能力」についての理解

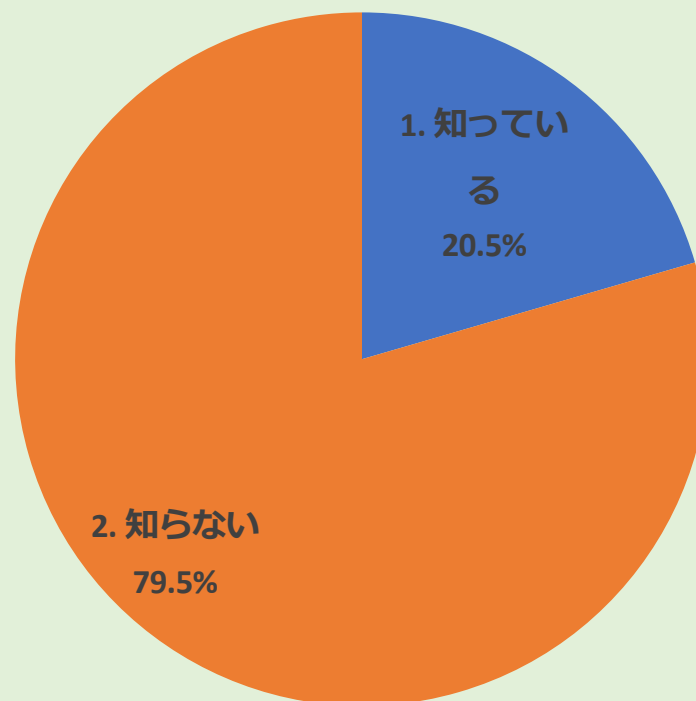


図 10. 「非認知能力」という言葉をご存知ですか？（%）

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

「非認知能力」という言葉を「知らない」（79.5%）という回答が「知っている」（20.5%）よりも多くみられました

7.2. 「非認知能力」の重視度

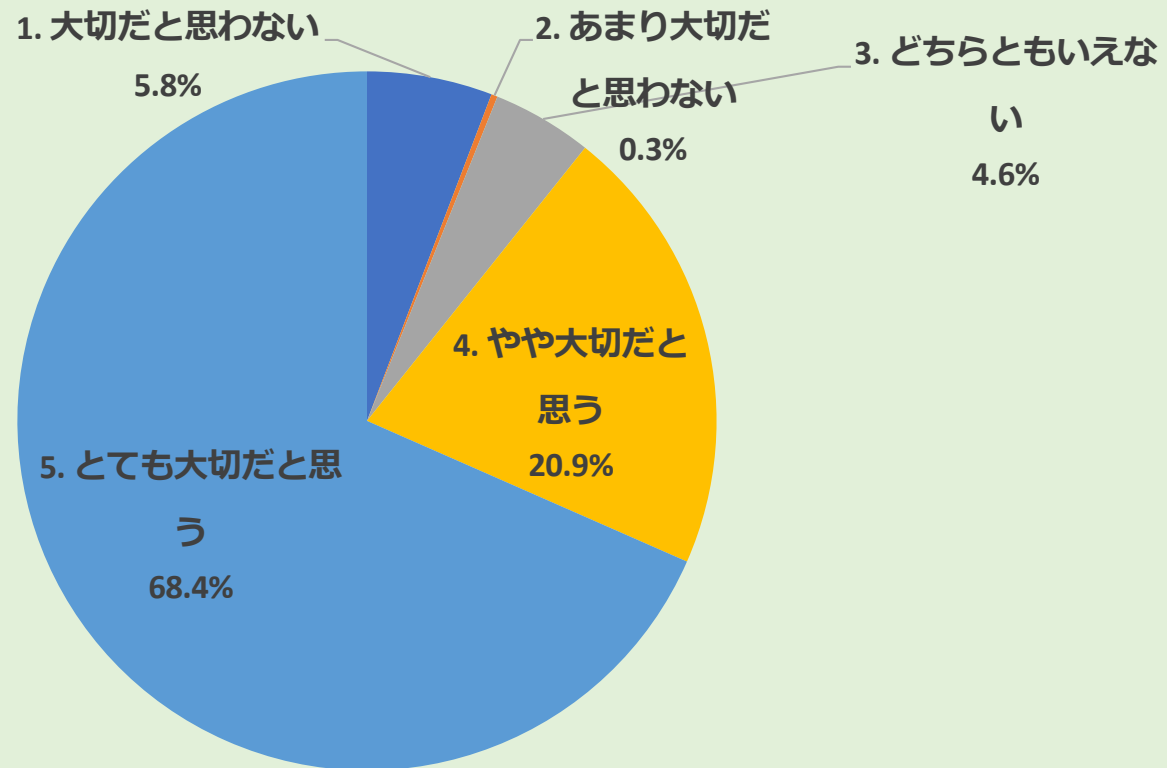


図 12. 「非認知能力」をどのくらい重視されていますか？（%）

注）「非認知能力」という言葉を「1. 知っている」と答えた回答者への質問（N=345）

「非認知能力」を「とても大切だと思う」（68.4%）または「やや大切だと思う」（20.9%）という回答が合わせて約90%を占めていました

7.3. 「非認知能力」についての家庭での働きかけや工夫

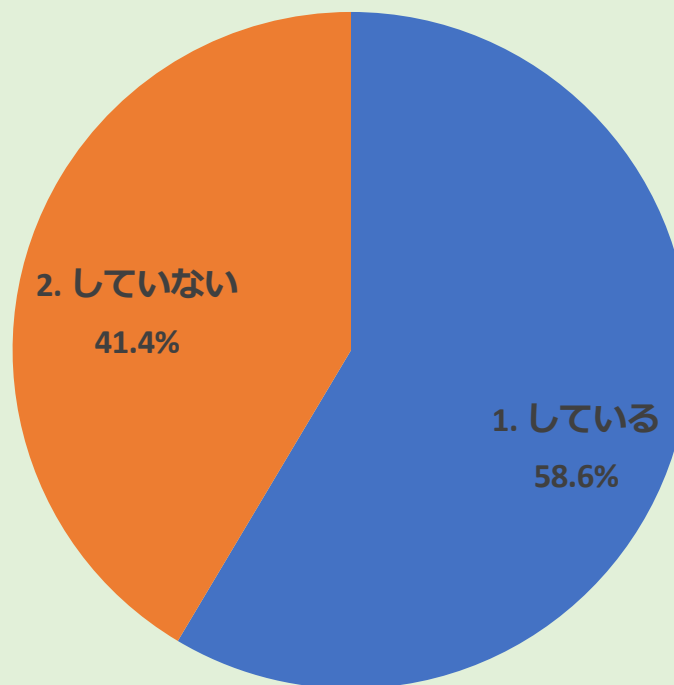


図 14. お子さんの「非認知能力」を育むための具体的な働きかけや工夫をご家庭でされていますか？（%）

注）「非認知能力」という言葉を「1. 知っている」と答えた回答者への質問（N=345）

お子さんの「非認知能力」を育むための具体的な働きかけや工夫をご家庭で「している」（58.6%）という回答が「していない」（41.4%）よりもやや多くみられました

7.3. 「非認知能力」についての家庭での働きかけや工夫（しない理由）

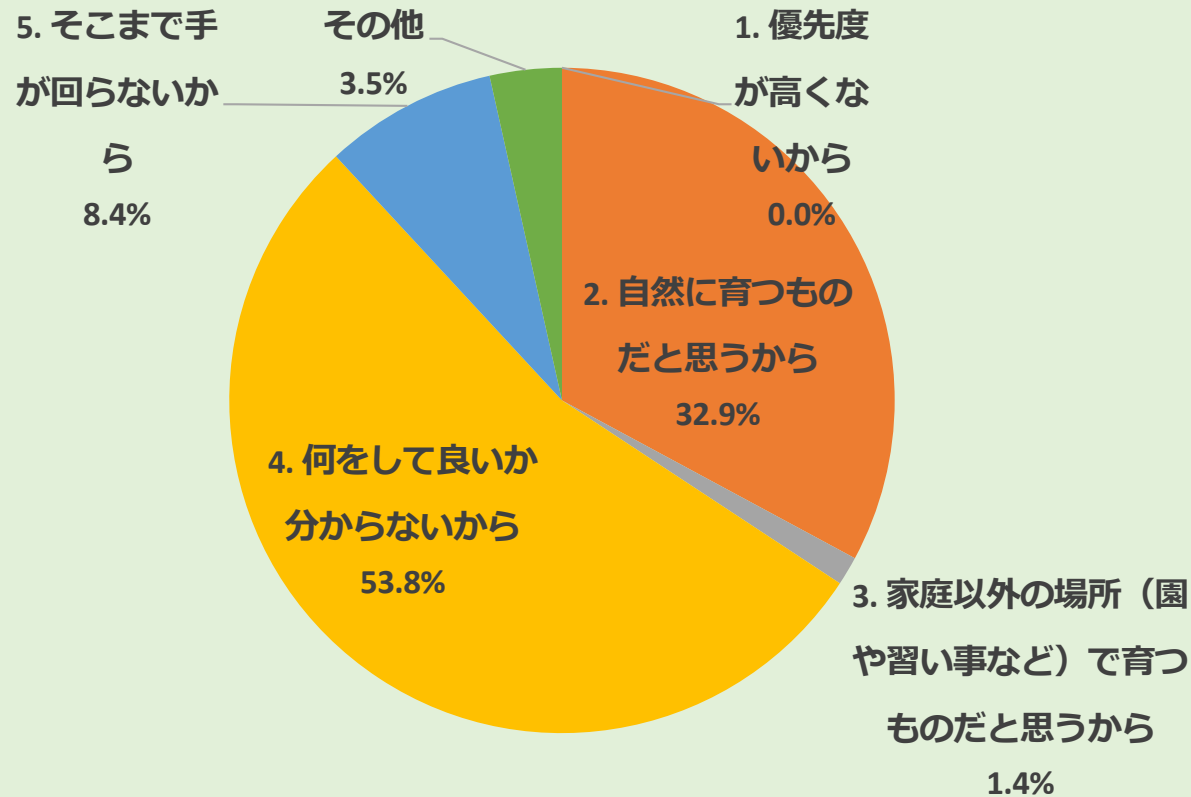


図 16. 「非認知能力」を育むための具体的な働きかけや工夫をしていない理由（%）

注）「非認知能力」を育むための具体的な働きかけや工夫を「2. していない」と答えた回答者への質問（N=143）

「非認知能力」を育むための働きかけや工夫をご家庭でしていない理由は、多い順に「何をして良いか分からないから」（53.8%）／「自然に育つものだと思うから」（32.9%）／「そこまで手が回らないから」（8.4%）でした

7.4. 保護者から見たお子さんの資質・能力

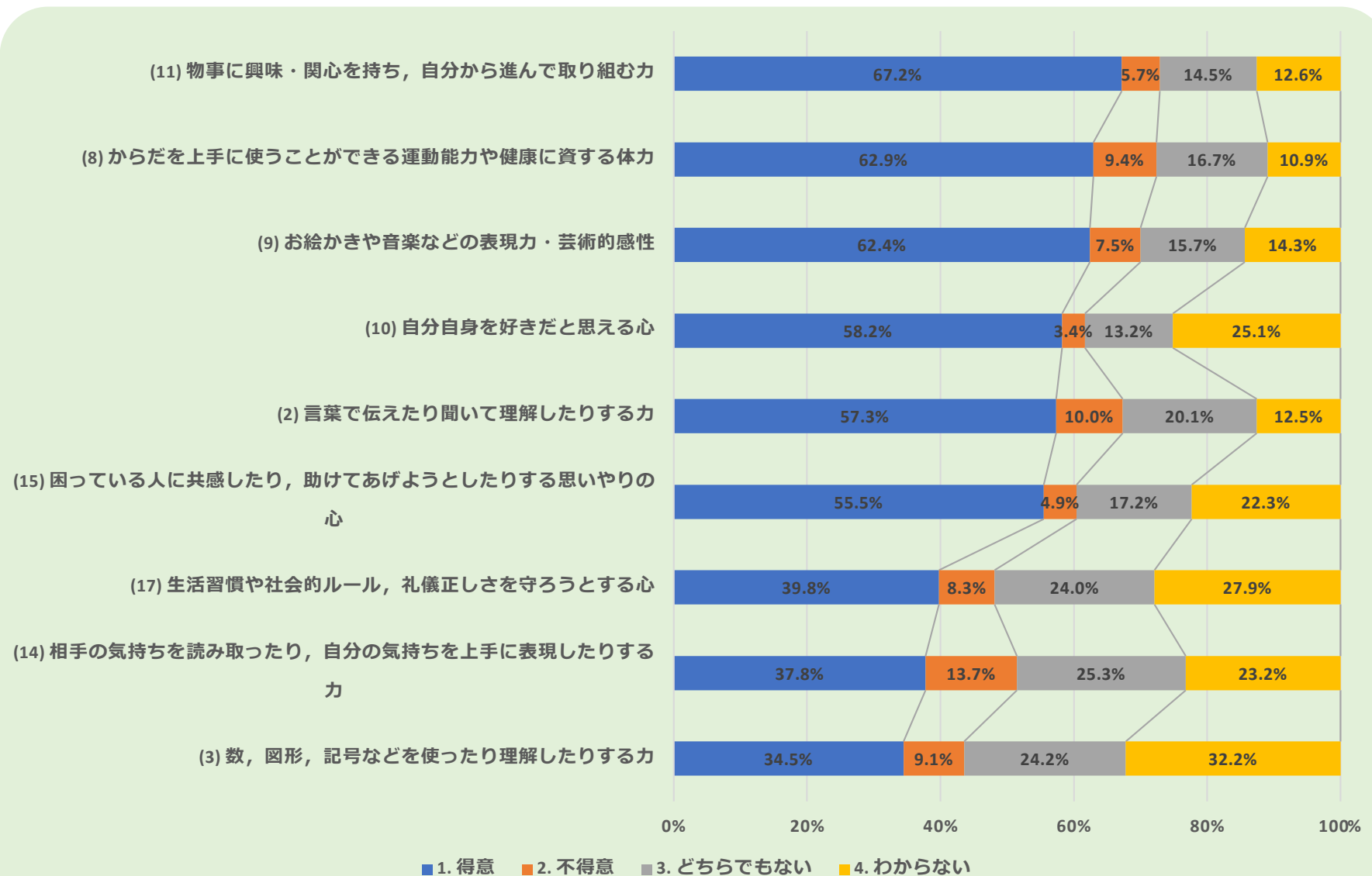


図 18-1. お子さんの資質・能力の得意・不得意（%） 【「得意」上位順】

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

7.4. 保護者から見たお子さんの資質・能力

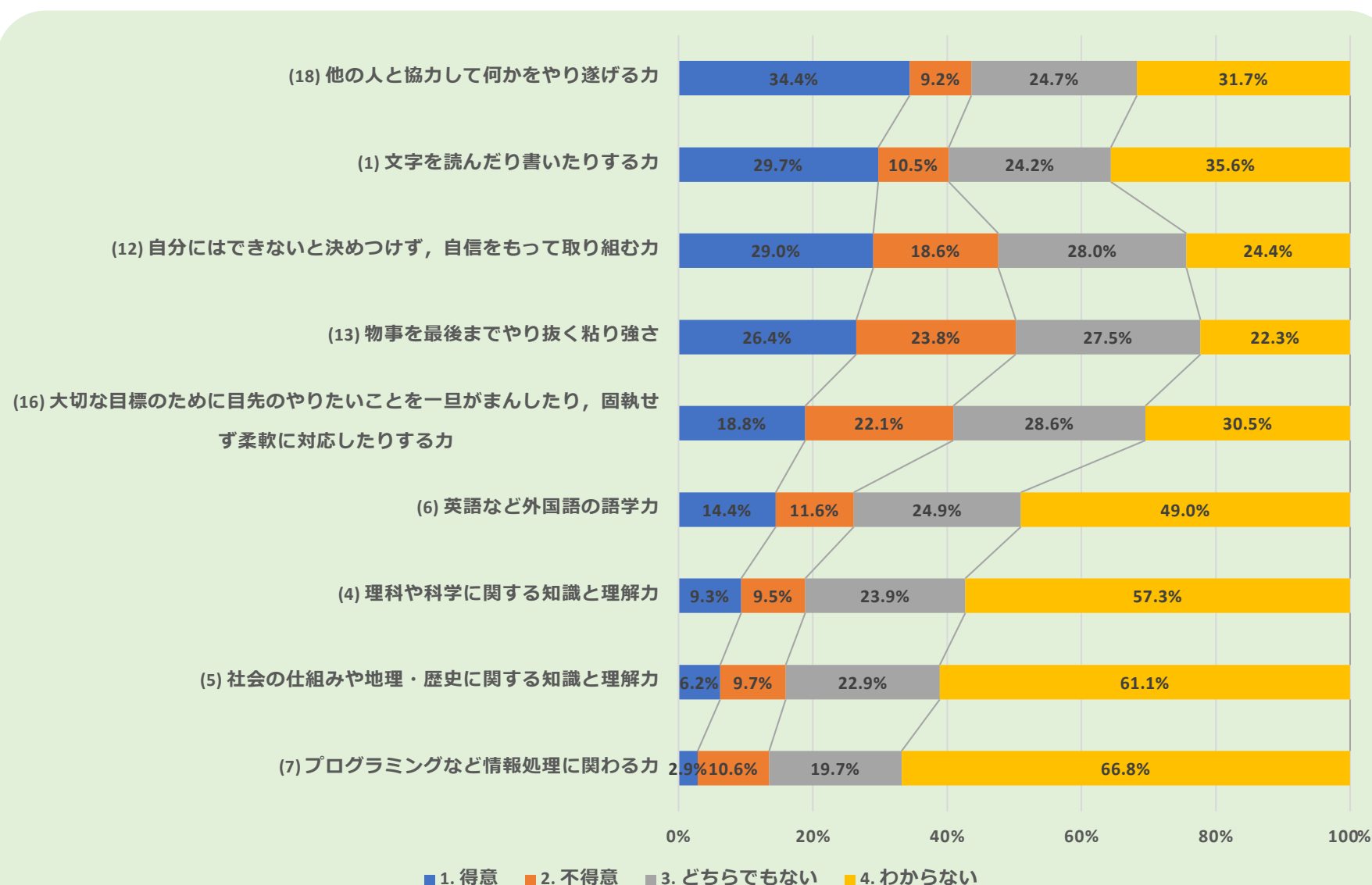


図 18-2. お子さんの資質・能力の得意・不得意（％） 【「得意」上位順】

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

7.4. 保護者から見たお子さんの資質・能力

（図18-1・図18-2より）

保護者から見てお子さんが「得意」と回答した人が多い資質・能力は、順に

- 1番目「物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力」（67.2%）
- 2番目「からだを上手に使うことができる運動能力や健康に資する体力」（62.9%）
- 3番目「お絵かきや音楽などの表現力・芸術的感性」（62.4%）でした

一方

保護者から見てお子さんが「不得意」と回答した人が多い資質・能力は、順に

- 1番目「物事を最後までやり抜く粘り強さ」（23.8%）
- 2番目「大切な目標のために目先のやりたいことを一旦がまんしたり，固執せず柔軟に対応したりする力」（22.1%）
- 3番目「自分にはできないと決めつけず，自信をもって取り組む力」（18.6%）でした

7.5.1. 18の資質・能力の中で特に大切にしたい力【上位5つ】



図 26-1. 18の資質・能力の中で特に大切にしたい力（選択率（%））

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

7.5.1. 18の資質・能力の中で特に大切にしたい力【上位5つ】

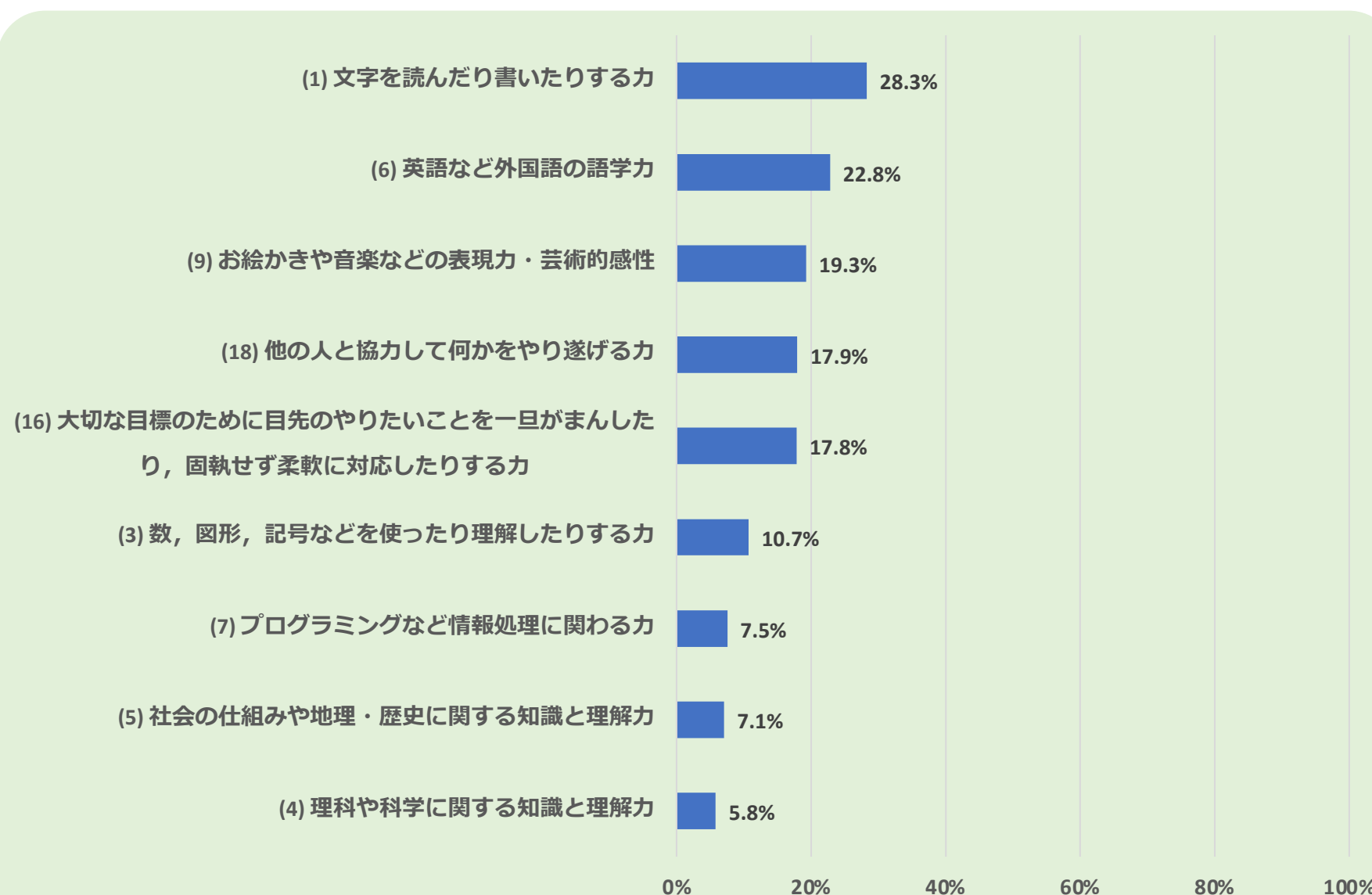


図 26-2. 18の資質・能力の中で特に大切にしたい力（選択率（%））

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

7.5.1. 18の資質・能力の中で特に大切にしたい力【上位5つ】

（図 26-1・図 26-2より）

18の資質・能力の中で特に大切にしたい力として選択した人の割合が多いのは、順に

1番目「言葉で伝えたり聞いて理解したりする力」（58.2%）

2番目「自分自身を好きだと思える心」（56.9%）

3番目「相手の気持ちを読み取ったり、自分の気持ちを上手に表現したりする力」
（47.1%）

4番目「物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力」（45.5%）

5番目「困っている人に共感したり、助けてあげようとしたりする思いやりの心」
（44.2%）でした

※これらの資質・能力は、年齢によらず「1.特に大切にしたい」と選択した人の割合が多く見られました

7.5.2. 「認知能力」と関連する7つの資質・能力の中で 特に大切にしたい力【上位3つ】

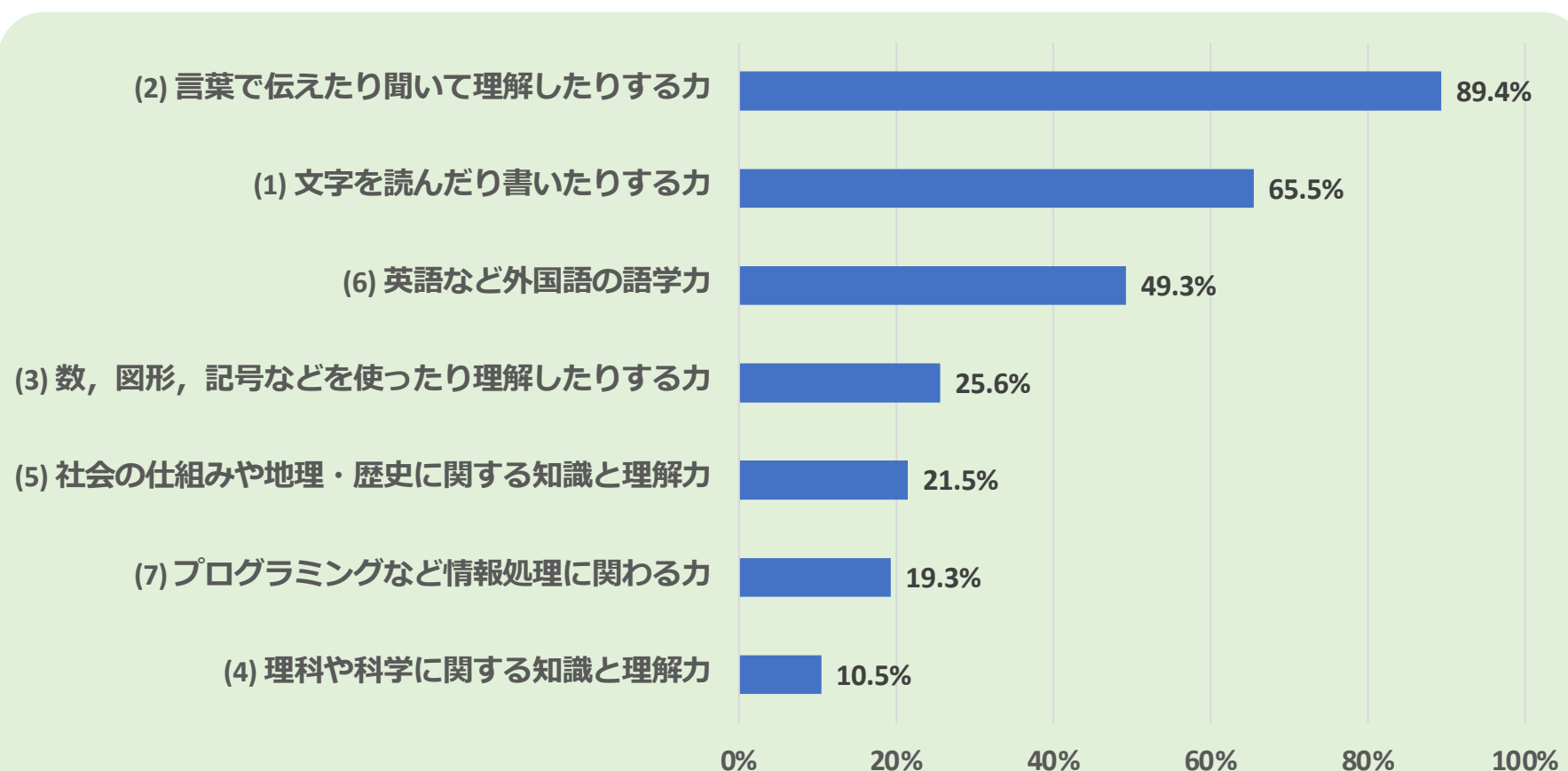


図 34. 「認知能力」と関連する7つの資質・能力の中で特に大切にしたい力（選択率（%））

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

「認知能力」と関連する7つの資質・能力の中で特に大切にしたい力として選択した人の割合が多いのは、順に1番目「言葉で伝えたり聞いて理解したりする力」（89.4%）／2番目「文字を読んだり書いたりする力」（65.5%）／3番目「英語など外国語の語学力」（49.3%）でした

7.5.3. 「非認知能力」と関連する9つの資質・能力の中で 特に大切にしたい力【上位3つ】

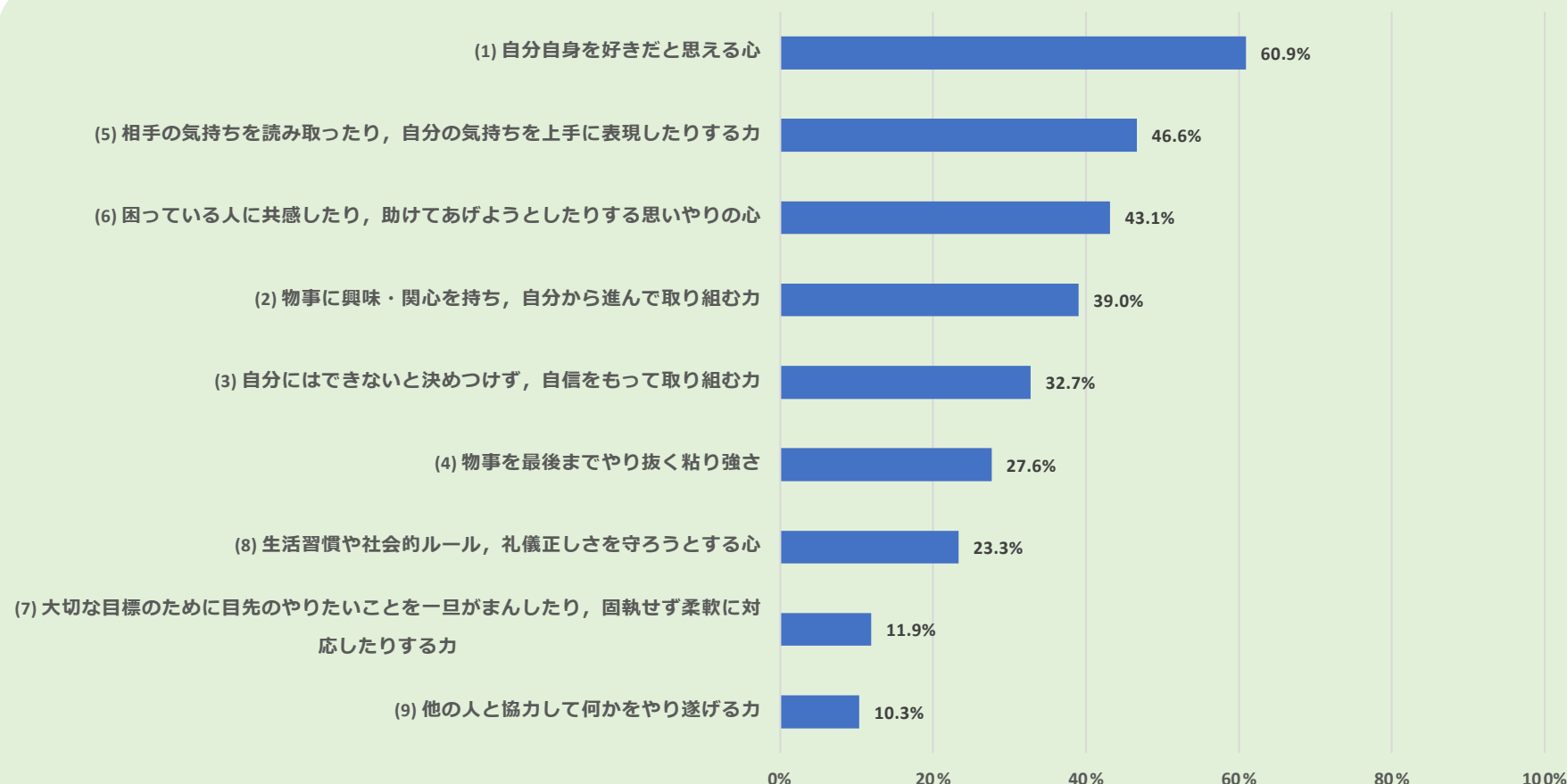


図 42. 「非認知能力」と関連する9つの資質・能力の中で特に大切にしたい力（選択率（%））

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

「非認知能力」と関連する資質・能力の中で特に大切にしたい力として選択した人の割合が多いのは、順に1番目「自分自身を好きだと思える心」（60.9%）／2番目「相手の気持ちを読み取ったり, 自分の気持ちを上手に表現したりする力」（46.6%）／3番目「困っている人に共感したり, 助けてあげようとしたりする思いやりの心」（43.1%）でした

7.6.2. 園の中で特に伸ばしてほしい資質・能力【上位5つ】

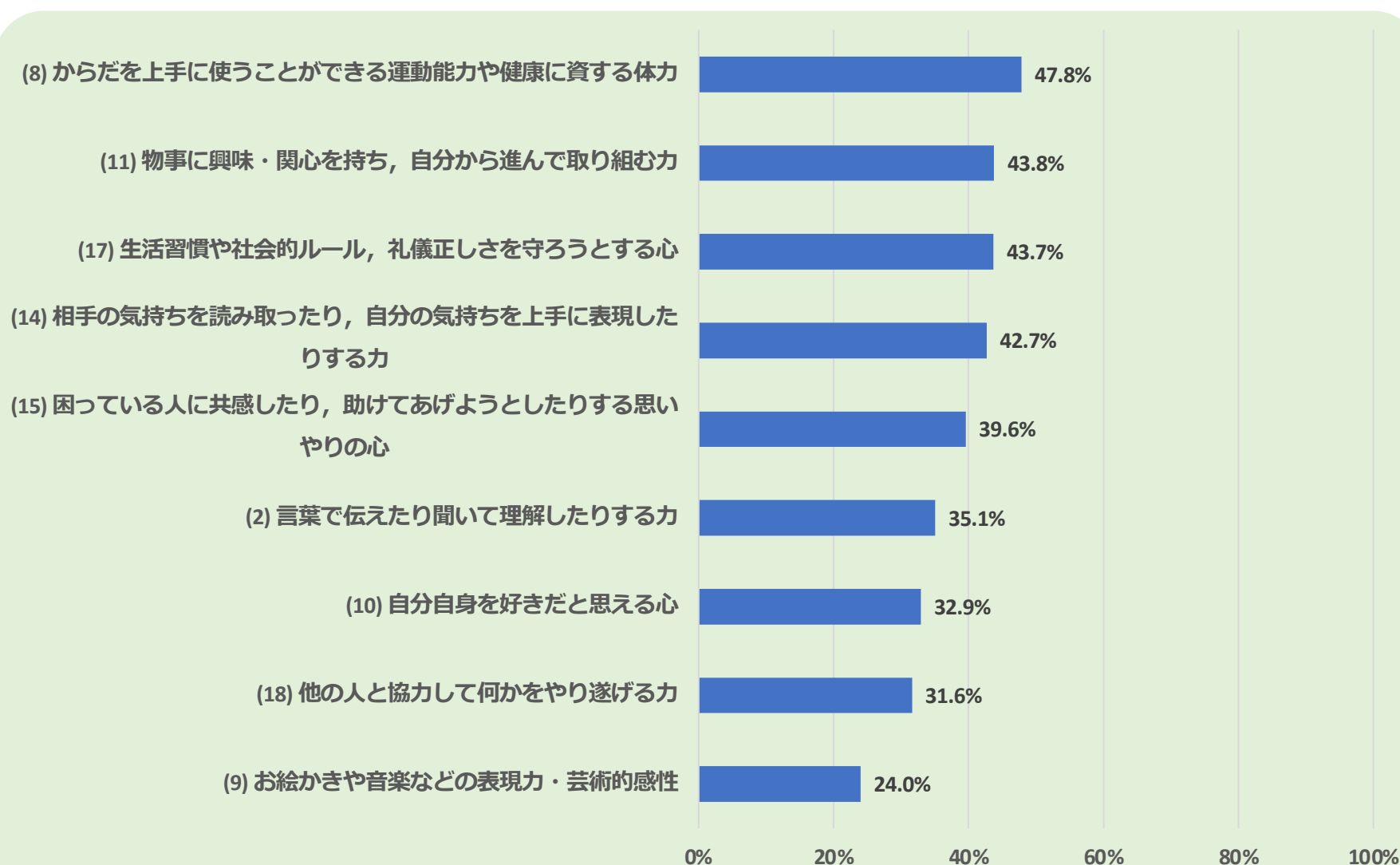


図 51-1. 18の資質・能力のうち園の中で特に伸ばしてほしい力（選択率（%））

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

7.6.2. 園の中で特に伸ばしてほしい資質・能力【上位5つ】

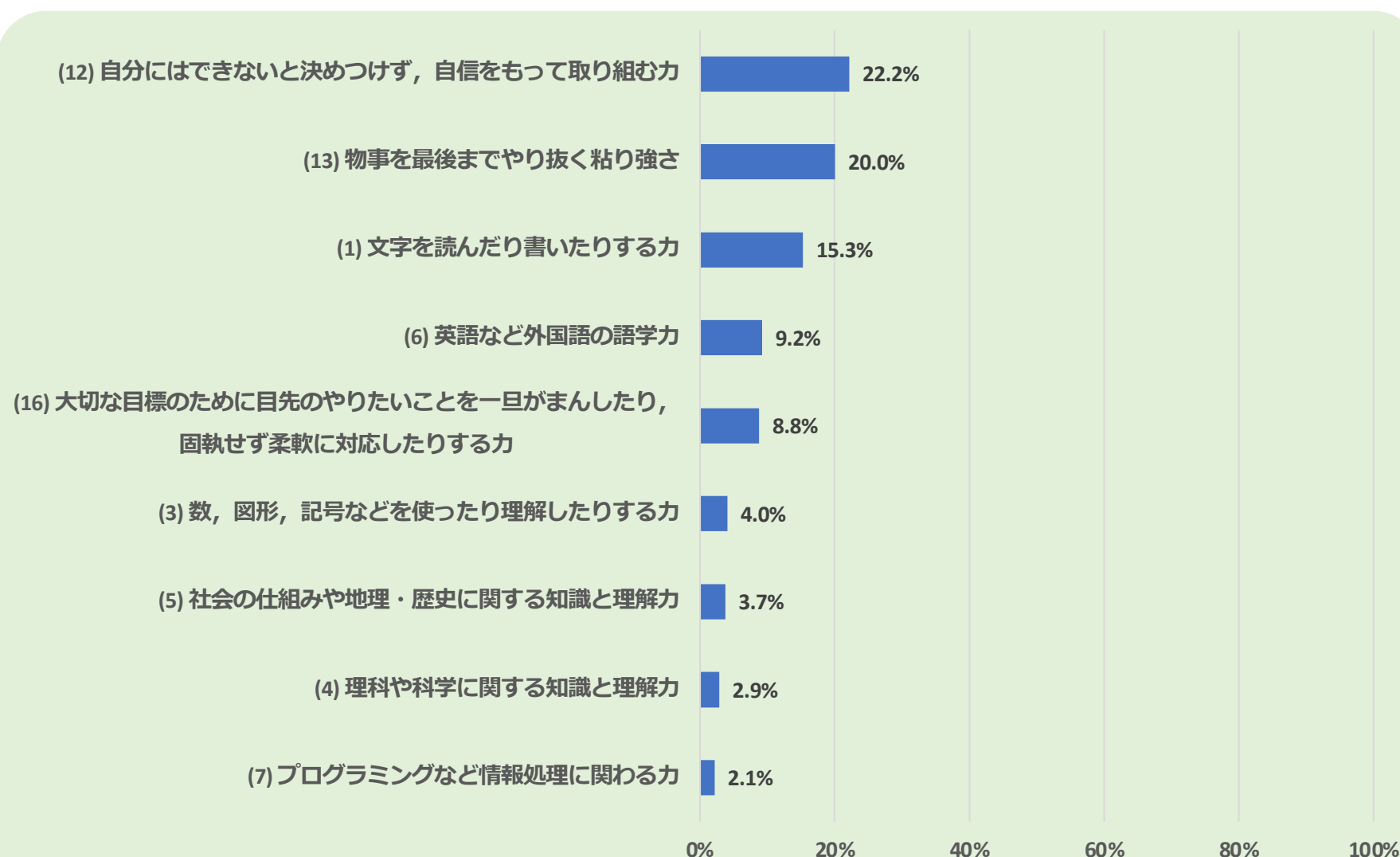


図 51-2. 18の資質・能力のうち園の中で特に伸ばしてほしい力（選択率（%））

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

7.6.2. 園の中で特に伸ばしてほしい資質・能力【上位5つ】

（図 51-1・図 51-2より）

18の資質・能力のうち園の中で特に伸ばしてほしい力として選択した人の割合が多いのは、順に

- 1番目「からだを上手に使うことができる運動能力や健康に資する体力」（47.8%）
- 2番目「物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力」（43.8%）
- 3番目「生活習慣や社会的ルール、礼儀正しさを守ろうとする心」（43.7%）
- 4番目「相手の気持ちを読み取ったり、自分の気持ちを上手に表現したりする力」（42.7%）
- 5番目「困っている人に共感したり、助けてあげようとしたりする思いやりの心」（39.6%）でした

※お子さんの年齢別に見ても回答傾向はほとんど変わらず、上位5つの資質・能力は、年齢によらず「1. 特に伸ばしてほしい」と選択した人の割合が多く見られました

7.7. 個々の「非認知能力」の重視度・プログラムや教材へのニーズ

特に取り上げた5つの「非認知能力」

- (1)内発的動機づけ**（物事に興味・関心を持ち，自分で決めて自分から進んで物事に取り組む力）
- (2)自己効力感**（自分にはできないと決めつけず，自信をもって物事に取り組む力）
- (3)感情知性**（相手の気持ちを読み取ったり，自分の気持ちを上手に表現したりする力）
- (4)向社会性**（困っている人に共感したり，助けてあげようとしたりする思いやりの心）
- (5)セルフコントロール**（大切な目標のために目先のやりたいことを一旦がまんしたり，固執せず柔軟に対応したりする力）

「非認知能力」に含まれる資質・能力のうち，特にこの5つを取り上げて（1）重視度，（2）ご家庭での働きかけや工夫，（3）園への期待，（4）教材やプログラムに対するニーズについてそれぞれおたずねしました

7.7.1. 5つの「非認知能力」の重視度

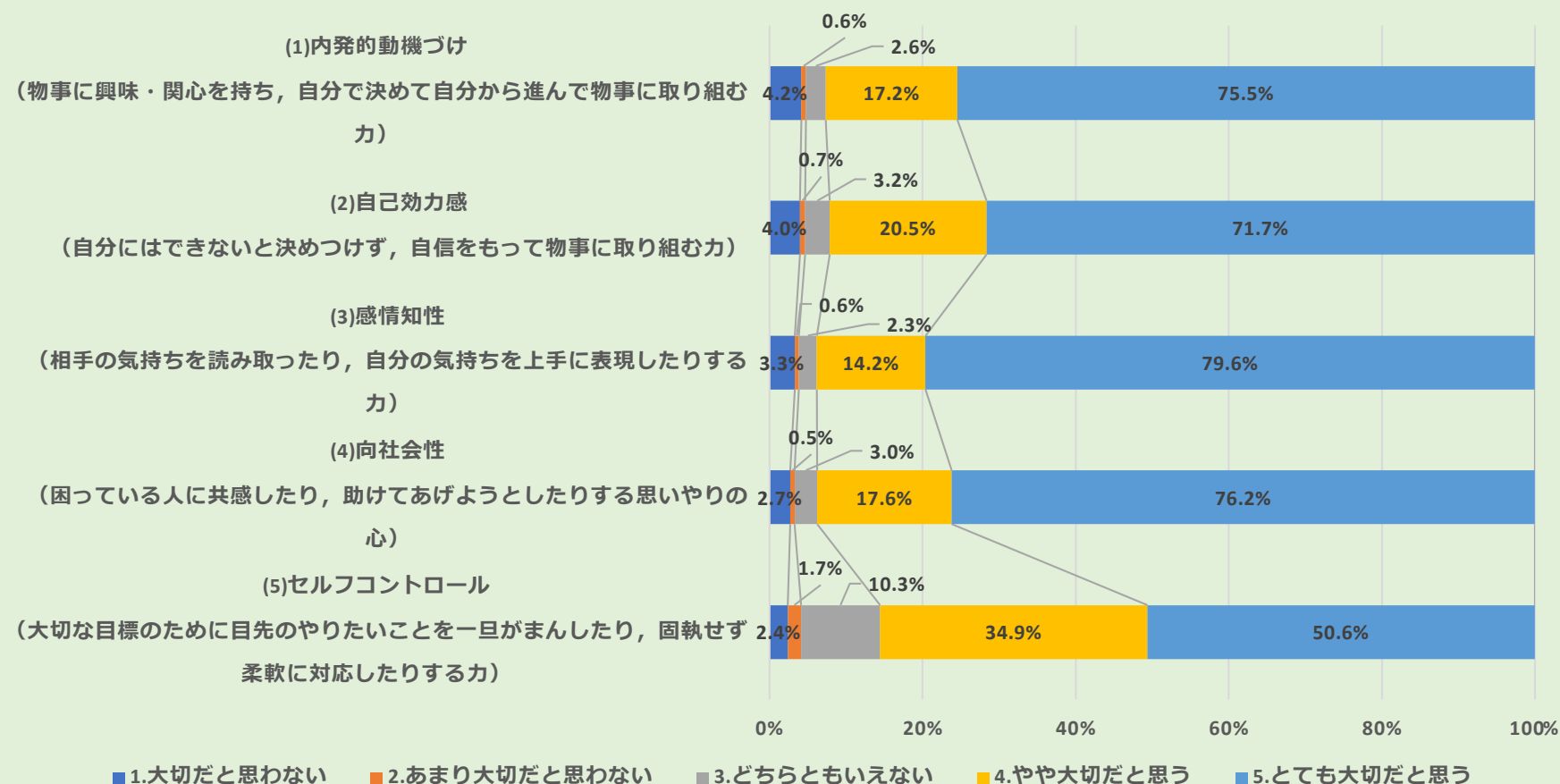


図 59. お子さんにとって、この力はどのくらい大切だと感じますか？（％）

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

5つの非認知能力についていずれも「とても大切だと思う」という回答が最も多く、「とても大切だと思う」または「やや大切だと思う」という回答の合計が80～90%以上を占めていました

7.7.2. ご家庭での働きかけや工夫

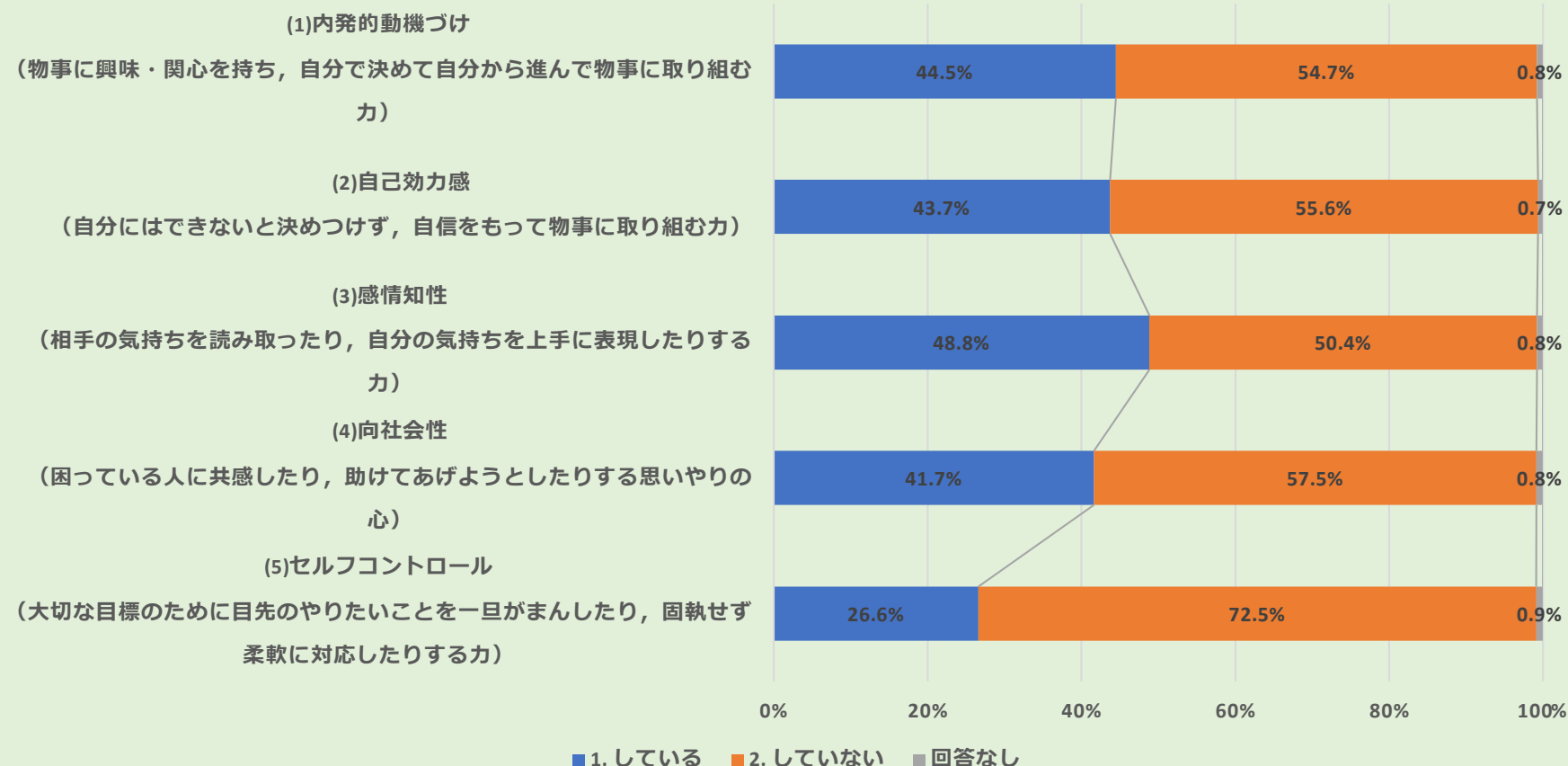


図 60. こうした力を育むための具体的な働きかけや工夫をご家庭でされていますか？（％）

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

その力を育むための具体的な働きかけや工夫をご家庭で「している」人の割合が多い順に「感情知性」（48.8％）／「内発的動機づけ」（44.5％）／「自己効力感」（43.7％）でした

7.7.3. 園への期待

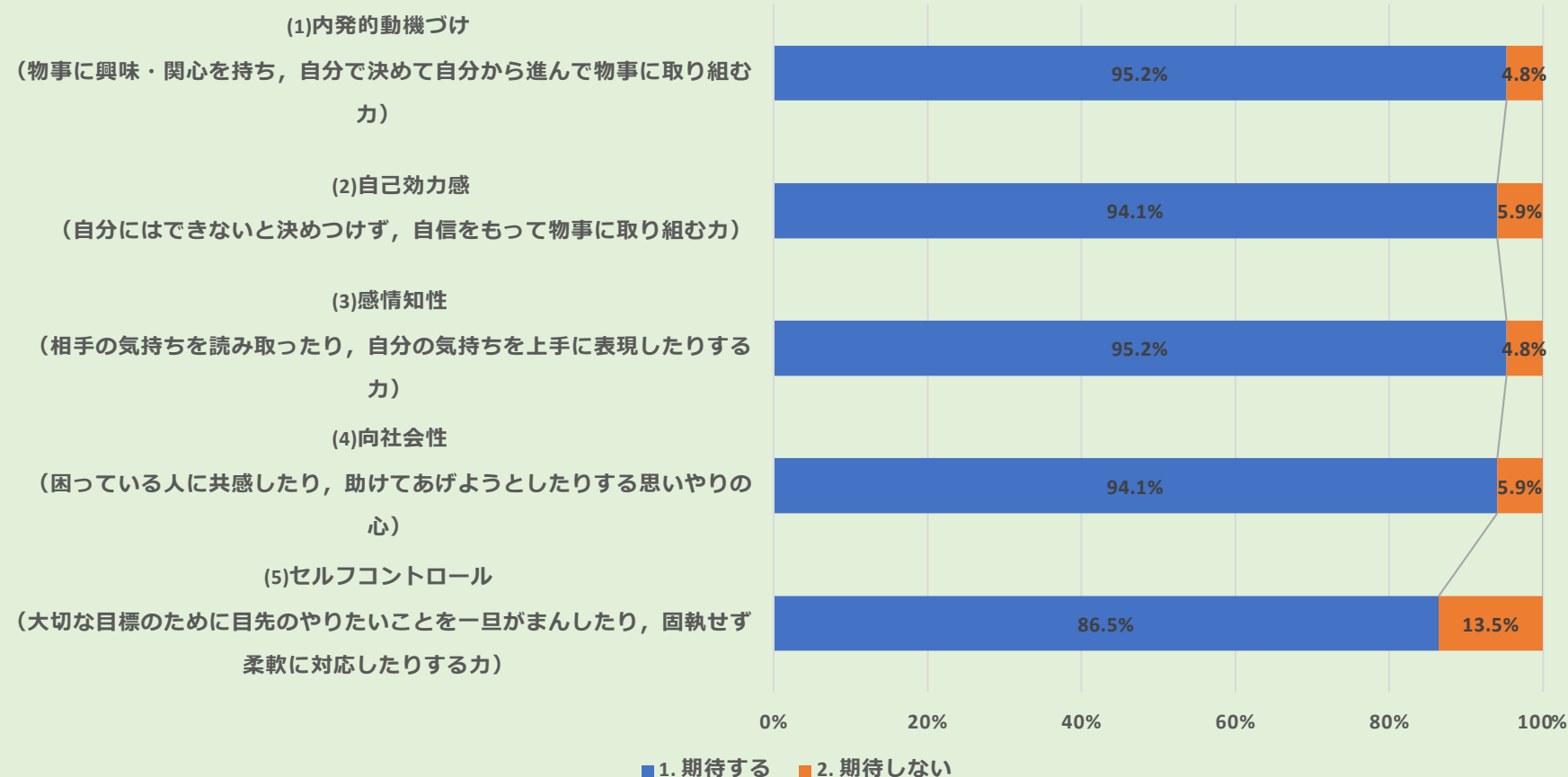


図 66. こうした力を伸ばす取り組みが行われることを園に期待しますか？
（％）

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

いずれの力についても、**その力を伸ばす取り組みが園で行われることを「期待する」**人の割合が80～90%以上を占めていました

7.7.4.教材やプログラムに対するニーズ

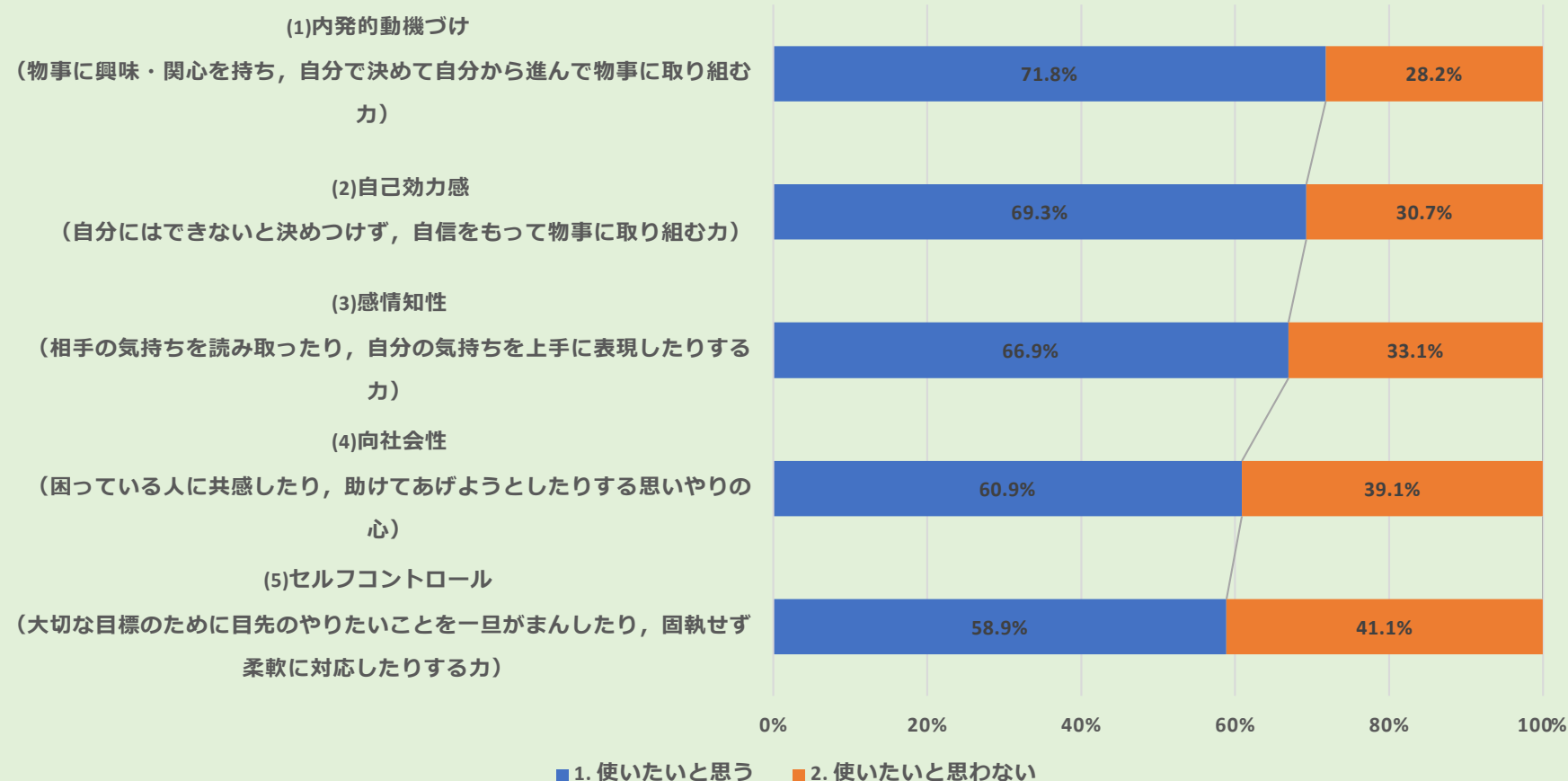


図 72. こうした力をご家庭で伸ばす教材やプログラムを利用したいと思いますか？
（%）

注）すべての回答者への質問（N=1,683）

教材やプログラムがあったらご家庭で「使いたいと思う」人の割合が多い順に「内発的動機づけ」（71.8%）／「自己効力感」（69.3%）／「感情知性」（66.9%）でした³⁰